

- 本号の内容 1 「東海の会」結成総会……………p1
 結成総会の声明全文……………p5
 2 真のねらいは組合組織の破壊
 京都府警と滋賀県警の乱暴な捜査実態……………p2

6/29「東海の会」が結成

この刑事弾圧を見過ごせば市民運動・住民運動にも波及する



6月29日、「関西生コン労組つぶしの弾圧を許さない東海の会」結成総会が名古屋市内でひらかれた。さまざまな市民運動、弁護士、学者が路線や潮流の違いを超えて準備したもので、結成趣旨は次のような問題意識を表明している。

「この問題は労働組合の路線や系統の違いを超えた、労働者の権利と市民の自由に関わる重大な問題である。この刑事弾圧を見過ごすことは他の労働組

合運動はもちろん、さまざまな市民運動・住民運動にも波及すると考えている。」

草の根運動的につくられたこの結成総会には130人以上の参加者が集まり、会場は満杯に。あわてて机と椅子を補充して、たくさんの意見を出し合って、さらに運動を広げていこうと盛り上がった。年会費1000円（個人1口以上、団体3口以上）の会員制度で運営することを決め、役員には以下の方々を選出した。

共同代表 石田好江（愛知淑徳大学名誉教授）
 大脇雅子（弁護士）
 柿山 朗（元全日本海員組合全国委員）
 熊沢 誠（甲南大学名誉教授）
 中谷雄二（弁護士）
 事務局長 近森泰彦（ユニオンと連帯する市民の会代表）



事務局次長 植木日出男（ユニオンと連帯する市民の会事務局長）、林 翔太（弁護士）

なお、結成総会では後掲の声明が採択された。（5ページに全文）

発行：全日建（全日本建設運輸連帯労働組合） お問い合わせ03-5820-0868

真のねらいは組合組織の破壊

京都府警と滋賀県警の乱暴な捜査実態

●京都府警の村田商事事件

なぜ警察はのべ67人にもものぼる組合役員や組合員を逮捕、起訴し、10か月を超す長期勾留をつづけているのか。

それは、この一連の弾圧事件が徹頭徹尾、関生支部という労働組合の破壊を目的にしているからにはほかならない。そのことは、このニュースの前号でお伝えした先月19日におきた村田商事事件でいっそう明確になったといえるだろう。大阪と滋賀の警察・検察がつくりあげた事件のストーリーも底が浅くてでたらめそのものなのだが、京都府警は、「正社員として雇用するよう不当に要求した疑い」があるとして、武委員長はじめ組合役員・組合員を5人も逮捕した。村田商事事件は大阪府労働委員会で審査中の労働事件である。そこに暴力団対策専門の警察が殴り込みをかけて労働委員会から事件を横取りしたという、でたらめの極みというほかないものである。

6月24日厚労省記者クラブの記者会見でこの点を懇切丁寧に説明した永嶋弁護士の話や、事件の意味について語った平和フォーラムの藤本共同代表や全国ユニオンの鈴木会長の話を、ダイジェスト動画（3分17秒）としてYoutubeに掲載したのでぜひご覧いただきたい。

京都で新たな関西生コン事件「正社員として雇用するよう不当に要求した疑い」

◆「連帯ユニオン中央本部」で検索 <https://www.youtube.com/watch?v=OKzthRv344o>

●任意出頭と家宅搜索の乱発

しかもこの事件、5人の逮捕で終わらず、その翌日から京都地域の組合員に対する任意出頭や、勤め先の会社事務所、分会事務所への家宅搜索がつづいているのである。滋賀県警が新たに作った前日の日本建設事件（6月18日4人逮捕）でも京都地域の組合員が狙い撃ちにされているので、それをふくめて1か月前の動きを以下のように日付順に並べるとその異様さは一目瞭然である。

5月21日（火）京都府警・任意出頭 1人（Y2）

22日（水）滋賀県警・任意出頭 1人（I）

31日（金）京都府警・任意出頭 1人（S）

6月18日（火）滋賀県警・日本建設事件で4人逮捕（H、N、I、O）

京都府警・家宅搜索 2か所（K社事務所、分会事務所）

19日（水）京都府警・村田商事事件で5人逮捕（武委員長、Y1、Y2、Y3、M1）

20日（木）京都府警・家宅搜索 5か所（M1自宅、KE社、K社、Y1自宅、M3自宅）

M3は出勤時に京都府警に取り囲まれて家宅搜索

京都府警・任意出頭 1人（W）

21日（金）京都府警・家宅搜索 5か所（T運輸、S運輸、D社、KE社、K社長宅）

同・任意出頭 2人（M4、K）

22日（土）京都府警・家宅捜索 4か所（T、S、Y3、I）
23日（日）京都府警・任意出頭 1人（S）
24日（月）なし
25日（火）滋賀県警・任意出頭 1人（K3）
26日（水）なし
27日（木）滋賀県警・任意出頭 1人（K4）
京都府警・任意出頭 1人（M2、M3）
7月 1日（月）京都府警・任意出頭 1人（Y3）

●保釈されたばかりで再逮捕

著しい特徴は、保釈されたばかりの組合役員や組合員が逮捕されていることだ。

6月18日日本建設事件で滋賀県警組織犯罪対策課に逮捕されたNは、6月初旬に6か月半ぶりに保釈されたばかり。Oも3月に保釈されたのちの再逮捕だった。

6月19日村田商事事件で京都府警組織犯罪対策課に逮捕された武委員長とYはそれぞれ10か月超の勾留中であるところ、4回目の再逮捕。Mは今年3月に7か月ぶりに保釈されたばかりだった。Y3は大阪広域協と結託した奈良の経営者に組合活動に難癖をつけられて解雇され、争議中である。

●任意出頭とは名ばかり。出勤時を狙って連行

任意出頭の実態もひどいものだ。

◎6月25日のK3の場合、出勤しようと自宅を出たところを滋賀県警組織犯罪対策課数人に取り囲まれ、まずスマホを取り上げられ有無を言わせず警察に連れて行かれた。「会社に連絡させてくれ」とK3は頼んだが、警察は「ダメ」だと強圧的に言い、K3から取り上げたスマホを勝手に操作してK3の勤務先に電話。社長に「今日は会社に行かれないから」と通告した。スマホを取り上げること自体が問題だが、それを勝手に使うなどのやりたい放題はK3を犯罪者扱いしているからにほかならない。

この日、K3は警察で「お前もこの日に日本建設の現場に行っただろう」と迫ったが、数年前のことだから記憶がない。そうこうするうちにK3の会社社長が出勤記録を調べた結果、K3は当日出勤していたことが判明。ようやく帰された。

◎6月27日のK4もおなじパターン。出勤のため自宅を出たところで滋賀県警に取り囲まれた。

その数日前、任意の事情聴取がしたいと連絡があったので組合の弁護士に相談。弁護士が県警に電話連絡して、7月2日出頭すると話をつけていた。それを無視して自宅まで押し掛けてきたので、「弁護士から話がいっているはず」と抗議したところ「聞いていない」としらばっくれる。氏名を質したところ「片山」と名乗った。片山は弁護士が話を付けた人物だった。

●麻薬捜査まがい

家宅捜索も乱暴極まりない。M2の自宅の場合、どこどこと入り込んできて、押し入れにしまってあった布団の圧縮袋を破り、中の布団を出した。「元に戻せ」と抗議したが、そのまま放ったらかし。当日出す予定の生ゴミの袋も開けた。

また、ベランダで這いつくばってエアコンの室外機の下までのぞき、その後、タンスの引き出しを出して女性の下着類にその汚れたままの手をつっこんでかき回した。

●悪乗りする経営者

警察はまた、企業への家宅搜索をくりかえしているが、その多くはこれまで京都や滋賀地域で関生支部と良好な労使関係をつづけ、業界再建運動においても協力関係をもってきた。その経営者が警察の圧力によって次第に関生支部と距離をおき、「逮捕された組合員は働かせられない」などと言いはじめている。

一連の弾圧のもうひとつの側面は、逮捕された組合役員や組合員の多くが起訴前であるにもかかわらず解雇されていること、さらには従来は受け入れてきた労働者供給事業による組合員の就労を拒絶していることだ。大阪広域協組は「連帯の組合員は就労させるな」と加盟各社に露骨な圧力をかけている。京都、滋賀でもそれが次第に広がろうとしているのだ。

●「大陰謀事件」に仕立てるつもりか？

いったいなにをしたいのか。京都府警や滋賀県警は大がかりな陰謀事件が背景にあると言いたいかもしれないが、このデタラメさはかれらの無謀なストーリーの破たんを逆に物語るものだといっていいだろう。どれほど大騒ぎして事件の拡大を必死で画策しようとも、その中心は村田商事事件がそうであるようにどこまで行っても労働組合活動にほかならない。事件にすることがそもそも無理であり、どれほど壮大に見せかけようとしてもその構図は虚構にすぎないからだ。

昨年8月に組合役員が逮捕されはじめたときからくりかえし協調してきたように、事件になどなりえない労働組合活動が刑事事件に仕立て上げられている。そこに関西生コン事件の最大の特徴がある。

大阪府警・大阪地検による宇部三菱S S・中央大阪生コン事件の場合、運賃引き上げの約束を守れと大阪広域生コン協組に要求したストライキが威力業務妨害だとされたものだ。だが、大阪地裁の会社側証人尋問で浮き彫りにされたのは、セメント出荷基地に出入りするセメント運搬車の前に立ち塞がったのは5～10人ほどの会社側管理職らだったこと、当日はそもそもセメント配送の注文がなかったようであること、つまり威力業務妨害は「自作自演」だったのではないかという疑いだった。

また、滋賀県警・大津地検による湖東協組事件や大津協組事件の場合、建設現場の法令違反を調査、申告、是正を求めるコンプライアンス活動が恐喝未遂とされ、ビラまきが威力業務妨害とされている。検察は大津地裁の会社側証人尋問で、現場を訪れた関生支部の組合員たちのだれが、どのような行為をしたのかを特定することもせず、まとめて「連帯の男ら」などと呼んだ。まるで無法者の集団が現場に大挙押し掛けて乱暴狼藉を働いたかのように印象づけたいからだろう。

しかし、弁護側の反対尋問によって、現場を訪れたのは実際は3人の組合員で、極めて穏やかな口調で法令違反を現場監督に指摘していたり、違反車両についての是正指導は臨場した警察官がおこなっていたことが明らかにされた。

そもそも守るべき法令を守らず安全・品質の手抜きで工事をやっているゼネコンの側にこそ問題があるのに、組織犯罪対策課肝いりの弾圧事件で主客転倒がおきていることこそおかしい話なのに、警察をバックにしたゼネコンは、弁護団の「法令違反のまま工事をつづけたら良かったということか」という趣旨の質問に対し、悪びれるどころか「連帯が来なければ一番よかった」などと平然と言っている有様である。

●産業別労働組合の当たり前の日常活動

このようなコンプライアンス活動は企業内労働組合が大半を占める日本ではなじみがなくて、

ピンとこないかもしれない。しかし、他産業に比べて労働災害や法令違反の雇用が格段に多い建設業や運輸業においては、産業全体を視野に入れて作業の安全や脱法雇用を調査したり摘発することはI T F（国際運輸労連）やB W I（国際木工労連）といった国際組織と各国加盟組合はごく当たり前の日常活動としてそれにとりくんでいる。「事件」のこうした真相と問題点は、今後の公判でさらにあきらかにされていくだろう。

●京都府警、滋賀県警に抗議の声を集中してほしい

しかし、捜査に名を借りた無謀な組織破壊攻撃がじゅうたん爆撃のようにくりかえされ、そのあとから装甲車がいくども突進してくるかのような現状のもとで、組合員も家族もへとへとになり、組織はずたずたにされている。

どうか各地から京都府警や滋賀県警に強い抗議を集中してくださるようお願いしたい。

関西生コン労組つぶしの弾圧を許さない東海の会 結成総会声明

私たちは、本日、昨年8月以来、全日本建設運輸連帯労働組合関西生コン支部（以下、関西生コン支部という）に掛けられている刑事弾圧事件に抗議し、これを支援するために東海地方（愛知、岐阜、三重）の有志が集まり、「関西生コン労組つぶしの弾圧を許さない東海の会」を結成しました。

結成総会では、関西生コン支部の委員長はじめ組合役員、組合員を次々に逮捕・勾留、起訴した事件は、刑事事件として立件されるべき事件ではなく、威力業務妨害、恐喝に名を借りた労働組合潰しのための企業と国家によるでっち上げ冤罪事件であり、近代国家としてありうべからざる刑事弾圧事件であるということが明らかになりました。

一つの労働組合の組合員の逮捕者延べ67名、起訴45名に上る未曾有の大量の刑事弾圧事件であること、およそ害悪の告知に当たらないことを言ったとして「恐喝」罪をでっち上げられ、労働組合のストライキへの平和的な協力要請を「威力業務妨害」罪とし、労働組合法1条2項を無視した逮捕、勾留、起訴を繰り返し、保釈を認めず、組合役員からの集会アピールの発信すら禁止し、家族との面会すら許さない人権無視の身柄拘束を長期間続けています、憲法上保障されている人権すら顧みない警察、検察、それに無批判に追従する裁判所は、厳しく批判されなければなりません。警察、検察は、取り調べの過程でも、「関西生コンを抜ける」と組合脱退をあからさまに要求し、組合員の家族を呼び出したり、家族に電話をして、「組合から脱退するよう」求めています。「公平中立」であるべき組織として、許されない行動です。こんな信じがたいことが私たち一般市民の知らないところで起き、それがこの国で暮らす多くの人々に知らされない状態が続いているのです。異常という他ありません。日本国憲法が保障する基本的人権は、国家権力によって敵視された団体・個人には保障されないなどということが許されてはなりません。企業と結託した人権無視の警察、検察の暴走と裁判所の横暴を広く多くの人々に知らせることが急務です。

私たち、「関西生コン労組つぶしの弾圧を許さない東海の会」結成総会に集まった一同は、滋賀県警、大阪府警、大津地検、大阪地検及び大阪地裁に対して、憲法に保障された人権を無視し、自らの権限を濫用して続ける労働組合潰しの刑事弾圧に厳重に抗議するものです。これらの機関と構成する人々は憲法と法律を遵守して、直ちに関西生コン支部に対する刑事弾圧を止めるよう要求します。身柄拘束されている組合員、組合役員は直ちに釈放し、適正な法による公正な裁判によって速やかに無罪が言い渡されることを求めます。

私たちは、今後、この刑事弾圧事件の被害者に対する支援活動を行っていきます。この事件の真相とそれを強行している警察・検察・裁判所を批判し、その声を全国に広げることに尽力するものです。

2019年6月29日

関西生コン労組つぶしの弾圧を許さない東海の会参加者一同